公共施設の現状を考える

連載企画 第５回

～中野市を 次世代 へつなぐために～

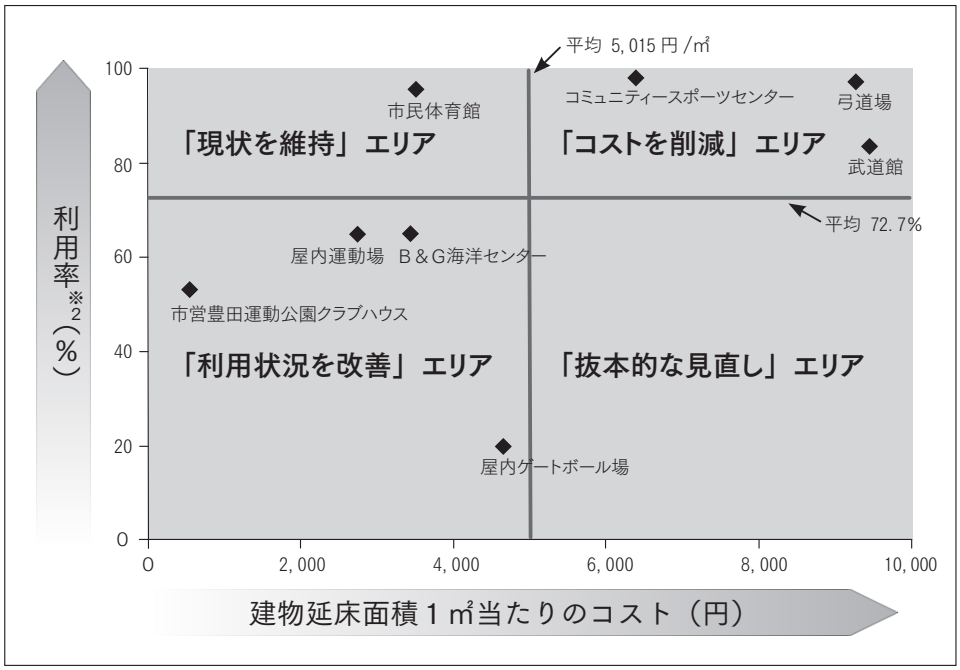
公共施設縮減目標 △20% を目指して

公共施設 とは
国や地方自治体が建設する施設。中野市公共施設白書では、公民館や図書館など市が保有する建物や、公園など広く市民が利用する施設を対象としています。

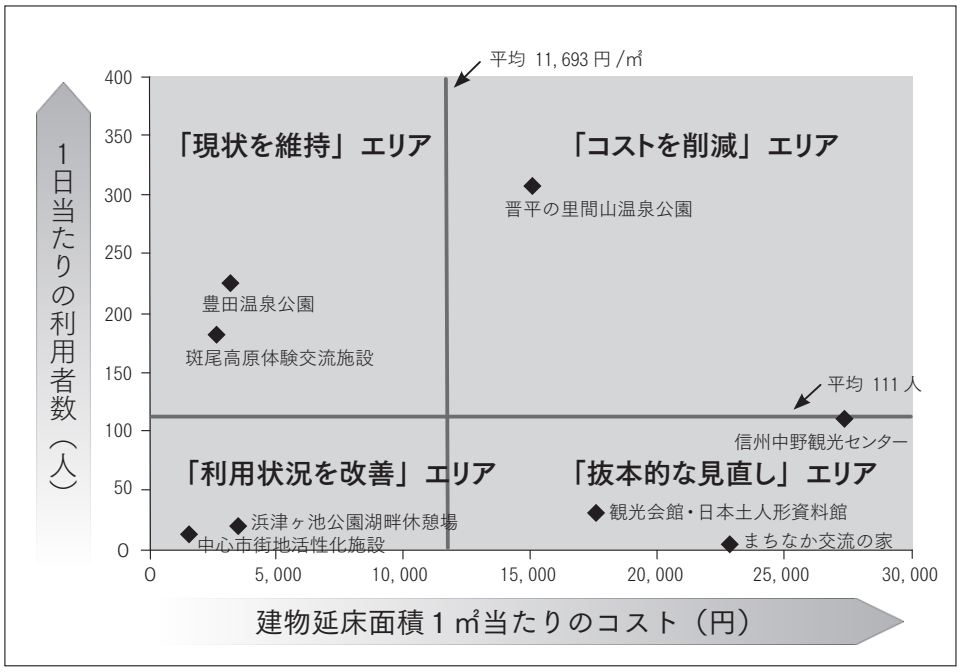
問い合わせ先　政策情報課行政管理係
☎（２２）２１１１（内線４０１）

施設の現状について、「ポートフォリオ分析」※1を用いてお知らせします。
今回の分析の対象となる施設は、スポーツ施設とレクリエーション系施設(温泉施設や交流施設など)です。

▼スポーツ施設のポートフォリオ分析(建物がない施設を除く)



▼レクリエーション施設のポートフォリオ分析（建物がない施設を除く）



スポーツ施設、レクリエーション施設ともに、社会経済状況や市民ニーズの変化などにより、市が保有する必要性や利用者数が低下した施設は、管理運営方法の見直しを行います。

また、市村合併により用途が重複し、利用者数の減少が顕著な施設は、廃止なども視野に検討します。

温泉施設については、指定管理者制度により管理運営をしていますが、近隣市町村にも民間の温泉施設が多くあり、経営状況の悪化も懸念されることから、施設のあり方を早急に検討します。

※１）対象となる項目に共通する２つの指標の組み合わせにより、その要素が平面上のどの領域に配置しているか分析し、重要性の高い項目を抽出する方法

※２）年間利用コマ数÷年間利用可能コマ数

健康長寿のまち 中野市

市民リレー元気の輪

No.24

町田（まちだ） 久美子（くみこ） さん（栗林）

○自己紹介

生まれは松本市です。夫の実家である中野市に引っ越してきてから10年間くらいは、育児に専念していました。当時、私のように専業主婦をやっている人は珍しく、農道をスカートをはいてベビーカーを押していると、農作業の手を止めて見られている視線を感じました。

義父の死をきっかけに農業を始めました。農業は全くの素人でしたが、同年代の方が周りに大勢いましたし、初めてやる農作業は新鮮に感じて、楽しくできました。講習会に出席したり、仲間や人生の先輩などの皆さんに教えていただいたり、助けていただいたりしたおかげで、今日に至っています。

宮澤昇一（みやざわしょういち）さんからのご紹介

現在は定年退職から5年目の夫と一緒にモモやリンゴなどを育てています。また、義母は草取りや野菜作りをしてくれています。

農業に夫も加わり、楽な毎日を過ごせると思っていたのですが、忙しい毎日を送っています。

▲りんご畑にて

○元気の秘訣

嫌なことがあったり、失敗したりしても「まあいいか」の精神で次に切り替えて、ストレスをあまり感じないことです。また、誘われれば断れない性格が良い方に転び、コーラスやフラダンスなどの趣味ができました。そこでの仲間とのおしゃべりなどが、ストレス発散になり、元気の秘訣になっていると思います。

○おらほの自慢

栗林は果樹園が多くて、そこで育つ果物はとてもおいしいです。今、畑になっている場所は、昔は栗林遺跡として、発掘作業が行われていました。遺跡があった場所に畑があるという不思議はありますが、おいしい果物ができる良いところです。

池田市長のわくわくレポート

vol. 35

中野市の魅力と味わいの仕掛けづくり

市民祭である中野ションション祭りが盛会のうちに終わり、いよいよ夏本番を迎える。ションション祭りでは大勢の市民の皆さんに参加をいただき、中野の底力、ポテンシャルの高さを改めて実感した。ご参加いただいた大勢の皆さんと当日街に繰り出していただいた多くの方々に感謝を申し上げたい。

さて、先ごろ中野市、山ノ内町、小布施町による共同プロジェクトとして、VR（バーチャルリアリティー）によるプロモーション映像を作成し、リリースした。約1カ月間で1万件のアクセスがあり、これからの情報発信に少し手ごたえを感じた。人口減少下にあって、地域の活性化のため交流人口増加や観光振興は重要な課題だ。中野市に来てみたくなるような思いを持っていただくためにも、臨場感あふれるVR映像は有効な手段だ。

しかしながら、音や映像では伝えられないものがある。それは、匂いと味だ。その地に赴き、その地の空気や風に触れ、その地の香を嗅ぎ、そしてその地ならではの味を味わう。そのためにはここ中野市に来て、体感・実感してもらうことがどうしても必要で、訪ねていただくことが重要だ。

豊田地域では斑尾ぼたんこしょう保存会の皆さんが、ぼたんこしょうを栽培し、規格外品を使って各種加工食品の製造を行っている。平地ではなかなかあの辛味がでない。地域ならではの調理もある。こうした食材や料理を育て、地域の情報として、その美味しさを発信する。こうした素材が中野市には多々あると思う。地域おこしの活動では、B級グルメや地場産食材を使った旬な料理の紹介など全国各地で盛んだが、中野市においても、この地にお越しいただいて、食べて、触れて、嗅いで、味わっていただくといった一連の「装置」が必要だと特に考える。旅では美味しいものがあることが旅の満足感を達成する必要条件であり、このあたりをこれから仕掛け、広め、強力に発信することが必要だと思う次第である。